

「確定申告異聞」

(2003)

何年もの間サラリーマン生活にどっぷり浸かっていたある日、東京に転居して何年後かの1990年だったか、突然品川税務署から呼び出しが受けた。「宇部の自宅」賃貸の不動産収入を確定申告しなければならないといふ。今から思えば当たり前の話、それも半端な金額じゃない、當時の宇部市の一軒家の相場の約2倍近い金額だった。確定申告等、生まれてこの方やったこともなく途方にくれていたところ、担当官が結構親切丁寧に書き方を教えてくれた。それ以後退職する迄、そして退職後も、毎年欠かさず丁寧にこの確定申告をしている。やってみれば実に簡単・合理的な事で、お蔭さまでしつかり確定申告の世界にハマッテしまい随分学習させてもらつた。不動産収入の申告に当たつては、いずれやらなければならぬ自宅の補修・改修工事等もなるべく賃貸時の経費に計上出来る様、時期を考えて工事をするようにし、いわゆる「経費で落とす・設備で減価償却する」…という合理的な策を身に着けた。

ところで、この話にさかのぼる十数年前、32才の時自宅が完成したのをきっかけに、会社の同僚・友達などから次々に住宅の設計依頼を受ける事になり都合1-2軒の住宅を設計させてもらつた。会社の仕事も段々忙しくなる頃だったが、同時にこの頃は設計するのが楽しくてしようがない時期で、一番脂の乗り切っていた時だと思つ。会社からはまともな給料を頂きながら、勤務時間中・残業・休日出勤をしながら「仕事に

支障の出ない程度に」、頼まれた住宅の設計に没頭した。基本設計のみならず、ひと通りの図面を20～30枚／件は描いたが、設計者名は全て馴染みの工務店名でお願いした。設計料として一件30万前後を頂いた覚えがあるが、確定申告をする等「頭の中には露程も無かつた」。物を知らないというのは恐ろしい事、国税庁には運良く御用こぼしを頂き、会社には大変な迷惑をかけ、業者さんには頼りつ放し・甘え放題・・・、今になつては唯ひたすら「御免なさい」と言わせてもらうしかない。

ところがそれだけではない。これ又、今はもう時効になつていると思うが、39歳の時、僕の絵の個展を始めて開催したが、その時展示した五十数点の絵の殆どが売れてしまった。元々賣るのが目的ではなく「自分の絵を更に極める為」・・・という純粹な理想を掲げていただけに、当惑と同時に嬉しさもあり、有頂天になつていた。一点5～10万前後という安い値段だったが総額的には結構な金額となつた。もし確定申告していたとしても、画材・額縁代もさることながら、絵の為の研鑽・遠征・宿泊等の費用も経費に含めればそれ程たいした税金にはなつていなかつたかもしけない・・・と自分で今勝手に弁解している。

さて定年を迎えたが、折しも会社で手がけていたパソコンによるCAD設計がすっかり手に馴染み・作業も油に乗りかけていた事もあり、定年後も馴染みのお客さんからの設計依頼が結構途絶える事がなかつた。当時バブル化していた老人保健施設の基本設計が主だった。定年後も引

き続き勢いに乗り、ささやかに仕事を続けていた。この頃には確定申告なるものもすっかり身に付き、自分のパソコンで簡単に処理出来るようになっていた。この設計事務所を将来的にも続けてゆく覚悟等さっぱり無く、早くマイペース人生にどっぷり浸かりたかったこともあり青色申告ではなく「確定申告」を利用した。それ迄に何年も確定申告の真髓・面白さをすっかり体得していたから、設計事務所としての確定申告は「本気で」取り組んだ。

定年と同時に僕は寮での逆単身赴任生活を終え、妻も東京から戻り自宅での新生活が始まったが、東京のマンションには子供達がそのまま残ったこともあり、宇部での新生活に必要な家具類、家電類、設備の更新等に改めてお金を掛けた。これが丁度我が設計事務所の開設と同時期となつた為、大半の費用を事務所開設の経費、減価償却費として「極めて合理的な基準で」計上させて頂いた。更には毎月の水光熱費、電話・通信費・接続料、車の維持費・ガソリン代、そして時々の僕の飲食代（打合わせ会議費）、出張・宿泊費（設計調査費）ゴルフ代（接待費）…（？）迄を「極めて合理的な基準で」事務所の経費に計上させて頂いた。この頃から妙に領収書をこまめに保存する癖が付いた。

長い間のサラリーマン時代には一切許されなかつた「経費」への積年の恨みを晴らさんばかりの勢いであつた。実を言うと、パソコンさえ出来ない妻を「作業の手伝い」として月にウン万円位計上出来ないか？と考

えたが、青色申告ではない為ダメだという事が分かり諦めた。これを2～3年続けたが、営業活動は全くせず、ややこしそうな仕事、面倒そうなお客様からの仕事はすべて断り続けているうちに、予定通り社会との縁も次第に遠のき、遂に待望のマイペース人生に入つていった。

折角のパソコンでの「確定申告」も、今は国と会社の僅かな年金だけの処理となつてしまい、必要経費とて所定の費目しか無く、30分の入力で終わってしまい、腕の奮いようが無く、すっかり寂しくなつてしまつたが、しかし毎年計算上還付される10万円前後の源泉徴収分の還付金が嬉しくてしようがない。

(このお話はフィクションであり、文中登場する組織・団体・個人は全て架空のものであることをお断り致します。)